

Q7 : 1時間の指導過程についてはどのようにしたらよいですか。

A7 : 指導過程は、その時間のねらいに沿って柔軟に組み立てることが大切ですが、基本的な指導過程が決まっていると、教師も児童も1時間の見通しをもって学習をすることができます。また、外国語活動の授業に慣れていない教師でも、取りかかりやすいという利点もあります。その他に、授業の1単位時間を児童の発達の段階や学習の特質に応じて、弾力的に運用することも可能です。ここで授業の1単位時間を45分とした場合の一般的な英語活動の指導過程の例を拠点校の実践を紹介します。



◎英語活動の基本的な指導過程の例

活動の流れ	内容	ねらい・大切にしたこと等
Greeting	あいさつの場 ・体を動かしながら、その時の気分や体調にあったあいさつをする。	・英語によるあいさつをすることで、英語の活動に取り組む意欲を高める。
Warm up	楽しい雰囲気づくりの場 ・歌、チャンツ、絵本、ミニゲームなどを行う。 ・前時の復習を兼ねることもある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">本時の活動内容に沿って</div>	・歌いながら身体表現ができ、英語の表現や語句を自然に身に付けることができるようにする。 ・英語の音やリズムに浸り、活動意欲がもてるようにする。
Today's Topic	A L T の英語に触れる場 ・(A L T がいない場合はH R T, またはT 2 が担当する。) ・実物や写真や絵等による show & tell <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">本時のめあてを提示しましょう</div>	・A L T と児童とがコミュニケーションを図ることができる場を設定する。 ・A L T の話す英語に親しむ。 ・外国の生活や文化等について視野を広める。
(Review)	前時を想起する場 ・前の活動の時間に触れた表現や活動内容を振り返る。	・前時に活動した内容を次の Activities につながるようにする。
Activities	本時、中心となる活動の場 ・活動の提示による紹介やコミュニケーションを図る活動等を行う。 ・コミュニケーションを図る活動を行うための個人、ペア、グループ、スクランブル等の学習形態を工夫する。	・具体的な活動のやり方を提示して、活動の方法やルールに気付かせる。 ・一人一人が英語で話す必然性があるような活動を設定する。
Comments	個のよさを認め、広める場 ・次時の意欲につながるように、具体的に児童のよかった点を評価 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">コメントを途中に入れる場合もあります。</div>	・自己評価、相互評価の場を設定する。 ・観点を分担しながら評価を行う。 (H R T - 主に態度について A L T - 主に英語の音声や表現等について)

(H R T : 学級担任 A L T : 外国語指導助手 J T E : 日本人英語教師)

それぞれの指導過程で、本時の中心となる活動に関連した内容を扱うと学習につながりが生まれ、効果的に英語に慣れ親しむことができます。